

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 地域の第一線で頼りにされ、愛され、そして地域を支えていく「地域の星」となる人材を育成する。
- 地域連携を推進し、地域とともに成長し信頼される学校となる。
- 人間力を高め、何事にも誠実に取り組む態度を育て、幅広い分野で活躍できる人材を育成する。
- 共生推進教室の設置により、ノーマライゼーションを推進し、多様性を受容できる能力を育成する。

2 中期的目標

1. 学力の向上

- (1) 「わかりやすく楽しい授業」や「個々の進路実現に役立つ授業」など生徒の実態に応じた幅広い内容の授業による、生徒の授業満足度の向上
 - ア 教員研修・教員間の指導法の共有により、生徒 1 人 1 台端末やその他 ICT 機器を活用した授業を多くの教員が取り入れ、「知識・技術」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学びに向かう態度」を育成
- (2) 3 年間を見通した学力および学習習慣の育成
 - ア 学力生活実態調査及び全国模試を実施し、教員の分析会や保護者懇談で活用
 - ※ 学校教育自己診断：「授業内容は進路実現に役立つ」への生徒の肯定的回答を令和 8 年度も 75%以上を維持 (R3 : 76. 5%/ R4 : 75. 3%/ R5 : 83. 1%)
 - ※ 学校教育自己診断：「教え方に様々な工夫をしている先生方が多い」への生徒の肯定的回答を令和 8 年度も 90%以上を維持 (R3 : 92. 5%/ R4 : 94. 7%/ R5 : 95. 3%/)
 - ※ 学力生活実態調査において、3 年間学力到達レベル B3 以上を令和 8 年度も維持 (R3 : B3 / R4 : B3 / R5 : 1 年 B3 ・ 2 年 B3)

2. 自主的な活動の推進

- (1) 生徒会活動・学校行事・部活動の活性化
 - ア 各行事の生徒実行委員の公募による多くの生徒の企画への参画
 - イ 部活紹介や体験入部期間を学年行事として実施
- (2) 地域と連携した事業並びに国際交流への積極的な参画
 - ア 外部団体等と連携した SDGs への取り組みや地域のイベントに積極的に生徒を派遣
 - イ 地元 N P O 等と連携した国際交流活動を企画・推進
 - ※ 部活動への参加率を令和 8 年度も 65%以上を維持、活動実績の向上 (R3 : 69. 8%/ R4 : 64. 9%/ R5 : 63. 6%)
 - ※ 学校教育自己診断：「国際交流、他校または地域との交流活動に参加する機会が多い」への生徒の肯定的回答を令和 8 年度も 25%以上をめざす (R3 : 27. 8%/ R4 : 27. 0%/ R5 : 24. 7%)

3. 安全で安心な魅力ある学校づくり

- (1) 教員の相談スキルの向上及び教育相談体制の一層の構築
 - ア 生徒状況の把握及び相談しやすい体制づくり
 - イ 学年・教育相談委員会との情報共有と OJT による経験年数の浅い教員への相談スキルの育成
- (2) 人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの気持ちをより一層涵養する。
 - ア 人権 H R や講演会、教員研修の実施
 - イ 共生推進教室の生徒との協同事業や交流機会の設定
- (3) 規範意識の涵養、いじめ防止などについて継続的な指導
 - ア オリエンテーションの実施や啓発文書の配布
 - イ 外部講師による交通事故の防止、SNS の適正利用についての講演会の実施
 - ※ 学校教育自己診断：「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」への生徒の肯定的回答を令和 8 年度も 65%以上を維持 (R3 : 68. 2%/ R4 : 68. 4%/ R5 : 71. 6%)
 - ※ 学校教育自己診断：「先生は、いじめについて真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答を令和 8 年度も 80%以上 (R3 : 87. 5%/ R4 : 84. 9%/ R5 : 88. 9%)
 - ※ 学校教育自己診断：「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」への生徒の肯定的回答を令和 8 年度も 80%以上を維持 (R3 : 86. 1%/ R4 : 84. 6%/ R5 : 89. 2%)

4. 個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導

- (1) 早い段階からの進路意識の涵養
 - ア 「総合的な探究の時間」を活用した進路学習
 - イ 外部模試を活用した進路目標達成に向けた準備戦略の確立
 - ウ 進路ガイダンスの実施
- (2) 進路目標達成に向けたサポート
 - ア 希望者による学習合宿や進学講習の実施
 - イ 英検受検の推進と合格に向けたサポート
 - ウ 自分の意見を相手にわかりやすく伝える力の育成
- (3) 「ともに学び、ともに育つ」の理念の下、共生推進教室の生徒の社会性スキルの育成と就労をサポート
 - ア すながわ高等支援学校との教育方法の共有と教員間の指導目標の共有
 - イ 外部団体と連携した就労体験や体験活動を通した社会性スキルの育成
 - ※ 英語運用能力テストで CEFR A2 レベル以上相当資格取得者を令和 8 年度も 40 名以上在籍 (R3 : 1 回のみ実施/ R4 : 74 名/ R5 : 77 名)
 - ※ 学校教育自己診断：「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会が多い」の生徒の肯定的回答を令和 8 年度も 40%以上を維持 (R3 : 48. 5%/ R4 : 45. 2% R5 : 50. 3%)
 - ※ 共生推進教室の卒業時の希望進路達成を令和 8 年度も 100%を維持 (R3 : 100%/ R4 : 100%/ R5 : 100%)
 - ※ 中堅上位以上大学 (国公立・関関同立・産近甲龍など) レベルの現浪合格数を令和 8 年度も 200 以上を維持 (R3 : 279/ R4 : 332/ R5 : 363)
 - 中堅大学 (摂神追桃など) レベルの現浪合格数を令和 8 年度も 200 以上を維持 (R3 : 388/ R4 : 260/ R5 : 171)

5. 広報活動の充実

- (1) 本校の生徒や教育活動の地域への拡散
 - ア 地元中学校との部活などによる合同活動を推進
 - イ 多くの参加者が安全に楽しく体験授業や部活見学などに参加できるよう学校見学会 (説明会) を企画・実施
 - ウ 学校ホームページなどを活用した本校の教育活動の積極的な発信
 - ※ 学校教育自己診断：「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」の保護者の肯定的回答を令和 8 年度も 75%以上 (R3 : 89. 1%/ R4 : 74. 6%/ R5 : 83. 2%)
 - ※ 中学 3 年生対象第 1 回進路希望調査において令和 8 年度も希望倍率 2. 0 以上 (R3 : 2. 34 倍/ R4 : 1. 98 倍/ R5 : 2. 02 倍)

6. 職員の時間外勤務時間の縮減

- (1) 職員が 19 時までに退勤できる職場環境づくり
 - ア 生徒の最終下校時刻遵守の徹底とそれに合わせた職員の退勤の徹底
- (2) 部活動指導時間のマネジメント
 - ア 月間活動計画の掲示による情報共有
 - ※ 年間の職員の月平均時間外勤務時間数を令和 8 年度も 40 時間未満 (令和 3 年度からの集計方式による) を維持 (R3 : 34h33m/ R4 : 35h08m/ R5 : 34h17m)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
※ 教職員のいじめに対する組織的な対応、教育相談体制の充実、人権教育の充実が高まっていることが見れる。その成果が生徒項目「3. 先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」、「14. 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定的な回答率の向上にも表れている。 安全で安心な学校づくりへ効果が出ており、項目「1. 学校に行くのが楽しい」、「1. 子どもは、学校に行くのを楽しみにしている」においても生徒・保護者ともに評価を得ている。 ※ 教科指導、進路指導において、個々の進路実現に向けた取組みが功をなしている。しかし、生徒の回答と比べ、保護者の回答からはその取組みが見えていない部分がある。もっと保護者への情報提供が大切であると判断できる。 ※ 生徒は「授業レベルやスピードを調整してくれる授業」を、保護者は「知識にこだわらず人間性や社会性を養ってくれる授業」を、教職員は「知識にこだわらず人間性や社会性を養ってくれる授業」と「進路希望が実現できる学力が高まる授業」を期待している。 授業内容が進路につながることから、少しでも多く理解したい気持ちが高まっている。また、保護者からは学力も大切だが、社会性を高める授業を希望している記述回答も見られた。 ※ 学校の情報発信（ブログ等）は、多くの保護者の方に見ていただき、学校の教育活動の関心をいただいている。 ※ 今年度は、国際交流については、国内で行える範囲で実施することができた。今後、生徒のニーズに合わせて海外語学研修の計画も進めていきたい。 ※ 記述式アンケートでは、感謝の言葉や貴重なご意見を多数いただいた。学校をよりよくするための意見もあり、全教職員で協力して改善する取組みが必要となる。	【第1回（令和6年6月6日実施）の抜粋】 ・私学の無償化の影響で公立高校への入学者が減少している。そのため、久米田高校の魅力を広めることが重要である。大学入試に関しては、年内で決めてしまう大学もあり、一般選抜を行わない学校もあるとも聞いているので、カリキュラムの他に新しい入試制度についても考えて、生徒の進路指導をする必要がある。久米田高校は入試や進路に向けての情報を生徒たちに多く伝えているところが進路実績に表れていると考えられる。これからも生徒への情報発信が重要になる。 ・久米田高校の生徒たちは基礎的なことはできるが、自分で考え応用する力が課題であると思われる。来年度は万博があり、万博をただ見るのではなく、万博での発表を聞いたり、体験していく中で、これからの未来の世界を考えていくように促すようにする必要がある。 ・久米田高校の課題としては、久米田高校での取り組みを保護者の方々に十分周知できていない部分もあるので、より多くの情報を 発信していく必要がある。また、久米田高校は比較的部活動の入部生徒数は多い方だが、以前に比べて若干減ってきているので、主体性を育てるためにも 部活動の取り組みも重視していく必要がある。 【第2回（令和6年10月19日実施）の抜粋】 ・久米田高校では、非常に多くの生徒にとって学校生活が楽しいと感じていことが大きな強みであり、それは今後も大切にしていきたい本校の特色である。生徒の学力や学習習慣を定期的に調査しているが、どのようにして望ましい学習習慣を確立させるかが今後の課題である。 ・府立高校の大きな強みは「教員の指導力」であり、特に授業力を高めることが重要である。授業の中で生徒の「わかる・できる」をどれだけ作ることができるかが非常に大切になってくる。その質の高い授業に加えての「探究」の要素が重要である。 ・「授業はわかりやすい」との項目に対して、肯定的な回答が多かった。しかし、「わかりやすい」＝「力が伸びる」ではないので、今後ますます授業の中で生徒の力を伸ばすことが重要である。 【第3回（令和7年2月15日実施）の抜粋】 ・目的意識を明確に持った「進路指導」では、夢設計手帳の活用や、総合的な探究の時間で生徒が自分自身の進路について考える機会をしっかりと保障している。総合的な探究の時間に参加している生徒の様子を見ると、きちんと話しを聞き、頑張って取り組んでいた印象であった。 ・久米田高校の志望者倍率は凄い。久米田高校に行きたいと考えている中学生は多い。今後は、新たなアドミッション・ポリシー枠の入試も始まる可能性がある状況の中で、どこに重点を置いて運営していくのが重要となる。 ・久米田高校はいろんな取組みが結果に繋がっている。また、「学校が楽しい」と感じている生徒さんが多い。「楽しい」が学校選びのキーワードの一つになっている。魅力的な学校づくりとその発信が重要である。 ・年内入試枠の増加に伴い、入学金・授業料等の早期の納付など、保護者にとって経済的な問題もある。また、生徒が自分自身に合った入試方法を理解して選択することが大切になっている。大学情報をより早い時期から伝えていくことが大切になってきている。 ・久米田高校の一番の魅力は、学校生活が楽しいと感じている生徒が多いことである。そして進路を保障することが重要となる。久米田高校は、多様な進路があり、なおかつ、生徒が、高校生活が楽しいと感じていることが素晴らしい点である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 学力の向上	(1) 生徒の実態に応じた幅広い内容の授業による、生徒の授業満足度の向上 ア 職員研修・職員間の情報共有 イ 授業見学の活性化による授業力向上	(1) 生徒1人1台の端末やICT機器を活用し、生徒が自ら考え発表し、主体的に活動できる能力を涵養する。 ア 職員研修や実践報告会を1・2学期に1回ずつ実施 感染症や災害による出席停止等で授業に参加できない生徒への学習保障のためオンライン授業などを実施する。 教員のICT活用を促進するため、活用方法の情報共有を進める。 イ 他教科を含めた教員間の授業見学を推し進める。	(1) ア 学校自己診断「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」生徒の肯定的回答90%以上[95.3%] 学校教育自己診断：「授業内容は進路実現に役立つ」生徒の肯定的回答75%以上[83.1%] 学校自己診断「ICTの活用やグループ討議等により、思考力を高め、言語能力を重視した授業を行っている」職員の肯定的回答60%以上[68.4%] 教員ICT活用率75%以上[86.0%] イ 学校教育自己診断「他教科を含む教員の間で、授業見学や授業方法の意見交換などを行い、教育力の向上に取り組んでいる」職員の肯定的回答50%以上[45.7%]	(1) ア 学校自己診断「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」95.4%(◎) 学校教育自己診断：「授業内容は進路実現に役立つ」82.3% (◎) 学校自己診断「ICTの活用やグループ討議等により、思考力を高め、言語能力を重視した授業を行っている」72.9% (◎) 教員ICT活用率89.8% (◎) イ 学校教育自己診断「他教科を含む教員の間で、授業見学や授業方法の意見交換などを行い、教育力の向上に取り組んでいる」職員の肯定的回答45.8% (△)
	(2) 3年間を見通した学力および学習習慣の育成 ア 学力生活実態調査及び全国模試を実施	(2) 学力・学習習慣の育成 ア 学力生活実態調査を4月に全学年、8月に1・2年生全員受験。全国模試を3年生は希望者で適宜、1・2年生は1月に全員受験。	(2) ア 学力生活実態調査の学力結果(GTZ)を各学年の学力到達レベルB3以上	(2) ア 学力生活実態調査(8/27 実施)の学力結果(GTZ)各学年の学力到達レベル (○) 1年：B3 (国B3・数B3・英B3) 2年：B3 (国B3・数B3・英B3)
2 自主的な活動の推進	(1) 生徒会活動・学校行事・部活動の活性化 ア 各行事への多くの生徒の企画参画 イ 部活紹介や体験入部の実施 ウ キャリア教育の推進	(1) 生徒会活動・学校行事・部活動の活性化 ア 生徒会主催で、運動部員を中心とした実行委員会を組織し企画・運営する。 イ 入学当初に1年生に対しての部活紹介を実施。併せて全員必参加の体験入部期間(1週間)を学年行事として位置づけ実施する。 ウ 社会保険労務士講演、卒業生(公務員、教員等)から仕事についての話を聞く。	(1) ア 学校自己診断「遠足・体育祭・文化祭・修学旅行などは、楽しく行えるよう工夫されている。」生徒の肯定的回答85%以上[96.1%] イ 入部率65%以上[63.6%] ウ キャリア教育に係る講演や仕事に関する講話等を聴く企画を2回以上実施	(1) ア 学校自己診断「遠足・体育祭・文化祭・修学旅行などは、楽しく行えるよう工夫されている。」94.8%(◎) イ 入部率63.6% 目標値には少し届かなかったが、各部が中学生への広報活動等にも力を入れ、部活動の活性化は図られた。(○) ウ 1年探究課題「SDGs」に関して企業等の方からの講演10/24、NP0公開講座夢設計「先輩に聞く」(公務員編)6/1、社会保険労務士による講演11/20実施。NP0公開講座夢設計「先輩に聞く」教員編1/25実施。計4回実施。(◎)
	(2) 地域連携 地域と連携した事業並びに国際交流への積極的な参画 ア 外部団体等と連携したSDGsへの取組みや地域のイベントに積極的に生徒を派遣 イ 地元NP0や外部団体等と連携した国際交流活動の企画・推進	(2) ア 地域と連携した事業への参加 EXP02025 共創チャレンジへの参画「KIOUETAI」の活動に共生推進教室や生徒会・写真部とともに植栽活動に参加 地元専門学校と地方創生SDGs「泉州美食」EXSP0に参加 イ 地元NP0や外部団体等と連携した国際交流事業を実施。また、葉書やオンラインなど可能な方法で交流会を実施する。	(2) ア 地域と連携した事業への参画を3回以上実施 イ 学校自己診断「近くの学校との交流や国際交流、ボランティア活動等に参加する機会がある。」生徒の肯定的回答30%以上[24.7%] 生徒会・部活動等による社会貢献活動を1回以上実施 国際交流事業を1回以上実施	(2) ア 岸和田駅前通商店街「どんチャカフェスタ」に4/6出演(フォークソング部、太鼓部)。 「岸和田お城まつり」に4/7出演(太鼓部、ダンス部) 岸和田駅前通商店街公式キャラクター作成に本校生徒が協力「わだてん」に決定し、地元情報誌「サザンプレス vol. 42 2024年版」に掲載。 「ライオンズクラブ国際協会335複合地区第70回年次大会」アトラクションにダンス部が6/1出演。 「国際ソロプチミスト大阪・南～認証40周年記念講演会」ダンス部が1部に参加し、2部に単独公演6/8。貝塚の水間観音デジタルアートフェス11/10にダンス部が出演(◎) イ 学校自己診断「近くの学校との交流や国際交流、ボランティア活動等に参加する機会がある。」35.0%(◎) 岸和田市福祉総合センターでダンス講座開催12/27。 国際交流「岸和田の魅力発見！」日本文化体験プログラムに岸和田市内の高校4校で参加9/23。 インドネシアのラブスクールチレンデー高校とのWeb会議システムによるネット交流10/25。(◎)

府立久米田高等学校

3 安全で 安心な 学校作 り	(1) 教員の相談スキルの向上及び教育相談体制の一層の構築 ア 生徒状況の把握及び相談しやすい体制づくり イ 学年・教育相談委員会との情報共有とOJTによる経験年数の浅い教員への相談スキルの育成	(1) 教員の相談スキルの向上及び教育相談体制の一層の構築 ア 年度当初の「高校生活支援カード」の確認、年2回の「安心・安全アンケート」により、生徒状況の把握を完全に行う。 生徒に相談窓口の設置を告知するとともに、休憩時間における校舎各階の教員による見守りを実施する。 イ 週1回の学年会において生徒情報の共有を行い、必要に応じて管理職・首席・学年主任・教育相談委員会・SCが担当教員に指導・助言しながら対応に当たる。	(1) ア 学校教育自己診断：「先生は、いじめについて真剣に対応してくれる」生徒の肯定的回答85%以上[88.9%] イ 学校教育自己診断「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」生徒の肯定的回答65%以上 [71.6%]	(1) ア 学校教育自己診断：「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」89.0% (◎) イ 学校教育自己診断「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」64.9% (○)
	(2) 人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの気持ちをより一層涵養する。 ア 人権HRや講演会、教員研修の実施 イ 共生推進教室の生徒との協同事業や交流機会の設定	(2) 人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの涵養 ア 全学年で年1回以上人権HRまたは人権講演会を実施。 人権に関する教員研修を最低年1回実施。 イ 共生推進教室が企画する交流会を年1回以上実施。共生推進教室の生徒と他の生徒とが協同して植栽事業に取り組む。	(2) ア 学校自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」生徒の肯定的回答80%以上[89.2%] 人権に関する職員研修を年1回以上実施 イ 学校自己診断「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会がある。」生徒の肯定的回答50%以上[50.3%]	(2) ア 学校自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」89.3% (◎) 人権に関する職員研修を実施(9/26) (○) イ 学校自己診断「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会がある。」52.7% (◎) 共生推進教室「久米田コーヒー屋さん(教師向け)8/23実施。
	(3) 規範意識の涵養、いじめ防止などについて継続的な指導 ア オリエンテーションの実施や啓発文書の配布 イ 外部講師による交通事故の防止、SNSの適正利用、講演会の実施	(3) 規範意識の涵養、いじめ防止などについての指導 ア 新入生オリエンテーションや集会を通じて基本的な生活習慣やいじめ撲滅について指導する。 毎月の遅刻指導を行う。 イ 外部講師を招いた交通安全講習、eネットキャラバンによるSNSの利用方法に関する講演を実施。	(3) ア・イ 学校自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」生徒の肯定的回答80%以上[89.2%] ア 年間遅刻総数を3500件未満[4032件]	(3) ア・イ 学校自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」89.3% (◎) ア 年間遅刻総数3,445件 (○)

府立久米田高等学校

4 個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導	(1) 早い段階からの進路意識の涵養 ア 「総合的な探究の時間」を活用した進路学習 イ 外部模試を活用した進路目標達成に向けた準備戦略の確立 ウ 進路ガイダンスの実施 (2) 進路目標達成に向けたサポート ア 希望者による学習合宿や進学講習の実施 イ 英検受験の推進と合格に向けたサポート ウ 自分の意見を相手にわかりやすく伝える力を育成する (3) 「ともに学び、ともに育つ」の理念の下、共生推進教室の生徒の社会性スキルの育成と就労をサポート ア すながわ高等支援学校との教育方法の共有と教員間の指導目標の共有 イ 外部団体と連携した就労体験や体験活動を通じた社会性スキルの育成	(1) 早い段階からの進路意識の涵養 ア 1年生から「総合的な探究の時間」を活用して自分のキャリアを見通した進路選びと目標を立てリポートする。 イ 1・2年生において全国模試を1月に全員受験させ、その結果や定期考査の成績、取得した資格や受賞歴などを「夢設計手帳」(本校独自の多機能スケジュール帳)に記載させる。使用方法について校内で検討を進めていく。 ウ 講師派遣業者や大学・専門学校と連携した全学年への進路ガイダンスの実施。 卒業生を招いた進路ガイダンス「先輩に聞く」を実施。 「進路の手引き」や進路ニュース等を通じ、変化していく入試等の情報提供の充実を図る。 (2) 進路目標達成に向けたサポート ア 3年生の夏期講座や希望者による土曜講座を開講。 1・2年生対象の夏期・春季学習会等を開講。 イ 英検受験の推奨と英語科による対策学習の実施により合格をサポート。 ウ 個々の生徒の発信力を高める (3) 共生推進教室の生徒と他の生徒と一緒に活動できる事業の創設を進める ア すながわ高等支援学校の教員の久米田高校訪問を年1回以上実施。 すながわ高等支援学校と久米田高校教員との情報交換の促進。 イ 障がい者の就労支援団体と連携しながら、2年生から共生推進教室の生徒の就労体験を進め、卒業時の就労内定を支援。	(1) ア・イ・ウ 学校教育自己診断「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」 85.0%以上をめざす[87.7%] イ 進路アンケートにより、 ・「夢設計手帳」にキャリア情報を記載している生徒 60%以上 [60.0%] ウ 実施後アンケートにより、 全学年向けガイダンスの肯定的回答 80%以上 [100%] 「先輩に聞く」公務員編肯定的回答 95%以上 [100%] (2) ア 中堅上位以上大学レベルの現浪合格数 250 以上を維持 [361] 中堅大学レベルの現浪合格数 250 以上をめざす [171] 看護系 20 人以上を維持 [52] 公務員 10 人以上を維持 [3] イ CEFR A2 レベル以上相当資格取得者 50 名以上在籍 [77 名] ウ 1 年プレゼンテーション大会を実施 [1 回] (3) ア・イ 共生推進教室 3 年生全員の希望進路達成 [100%] 新転任者等による共生推進教室と本校(すながわ高等支援学校)との交互授業見学を 1 回以上実施。	(1) ア・イ・ウ 学校教育自己診断「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」 91.0% ※過去 6 年で最高値 (◎) イ 進路アンケートにより、 「夢設計手帳」にキャリア情報を記載している生徒 66.3% (◎) ウ 実施後アンケートにより、 全学年向けガイダンス 99.5% (◎) 「先輩に聞く」(公務員編 6/1) 100% (◎) (2) ア 中堅上位以上大学レベル R5:361→R6:301 (○) 中堅大学レベル R5:171→R6:121 (△) 看護系 R5:52→R6:29 (○) 公務員 R5:3→R6:2 (△) ※1・2 年対象夏期集中学習会 7/24～7/26 の 3 日間実施 67 名参加。 今後、ガイダンス等いろいろな指導で目標や取組みの姿勢を高めていきたい。 イ CEFR A2 レベル以上相当資格取得者 61 名 (◎) ウ 1 年プレゼンテーション大会 12/18 実施 (○) (3) ア・イ 共生推進教室 3 年生全員希望進路内定 (◎) 新転任者等による共生推進教室と本校(すながわ高等支援学校)との交互授業見学実施。(○) すながわ→久米田 10/30 久米田→すながわ 11/5
----------------------------	---	---	---	---

府立久米田高等学校

5 広報活動の充実	(1) 本校の生徒や教育活動の地域への拡散 ア 地元中学校との部活などによる合同活動を推進 イ 多くの参加者が安全に楽しく体験授業や部活見学などに参加できるよう学校見学会（説明会）を企画・実施 ウ 学校ホームページなどを活用した本校の教育活動の積極的な発信	(1) 本校の生徒や教育活動の地域への拡散 ア 中学校から依頼された部活動公演や、中学校部活動との合同練習会を積極的に実施する。中学校から依頼された講演会に教員を派遣する イ 新型コロナ感染対策を講じた上で、できるだけ多く参加いただけるよう実施教室を増やしたり、ローテーション数を増やしたりするなどして学校説明会を実施する。 ウ 積極的に学校ホームページを更新し、本校の教育活動をタイムリーに発信する。	(1) ア・イ・ウ 中学3年生対象第10月進路希望調査において希望倍率2.00倍以上[2.02倍] ア 連携活動を4回以上実施[10回] イ 本校主催の学校説明会を年2回以上実施[3回] ウ 学校教育自己診断：「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」保護者の肯定的回答75%以上維持[83.2%] 校長ブログ110件以上更新[131回]	(1) ア・イ・ウ 中学3年生対象10月進路希望調査における希望倍率は1.92倍(○) ※旧4学区の中学生人口減少、私学や通信制への進路数の増加に伴い、本校の希望倍率は若干下がってきているが、本校の教育活動の地域への拡散の成果で泉州の高校では上位の倍率となった。 ア岸和田市立野村中学校でダンス部が地元イベントに11/17参加。 泉大津市立戎小学校でダンス部が地域の高齢者向けの健康体操を11/17披露し交流。 国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)で支援学校等ダンスパフォーマンス大会に11/16ゲスト出演。 泉大津市立東陽中学校PTA社会見学会6/22実施。 岸和田市立桜台中学校進路講演会に1/24参加。 共生推進教室説明会を貝塚市役所で8/30実施、泉大津市教育支援センターで9/3実施、エブノ泉の森ホールで9/10実施、岸和田市教育センターで12/26実施。計6回(◎) イ 本校主催の学校説明会を、夏：8/22、8/23、秋：11/16、冬：12/21に3回(計4日)実施(◎) ウ 「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」80.3%(◎) 校長ブログ121件更新(○)
6 職員の時間外勤務時間の縮減	(1) 職員が19時までに退勤できる職場環境づくり ア 生徒の最終下校時刻遵守の徹底とそれに合わせた職員の退勤の徹底 イ 部活動指導時間のマネジメント ウ 校務運営の効率化の推進	(1) 職員が19時までに退勤できる職場環境づくり ア 校内放送で最終下校を知らせる。日直教員の校内巡回、部活指導方針への明記などにより部活完全下校時刻を徹底する。それに合わせて部員とともに退勤する習慣を管理職から随時呼び掛けを行う。 イ 月間部活動計画書を校内の廊下に掲示し、誰もが確認し合い、遵守するよう促す。時間外勤務時間数の多い教員には管理職が随時ヒアリングを行い部活の運営マネジメントについて助言する。 ウ 校務分掌の定員見直しの実施 ICT機器(PCディスプレイ等)及びその環境整備の充実を行って校務運営の効率化を図る。	(1) ア・イ 職員の月平均時間外勤務時間数を年間40時間未満維持[34h17m] ウ 校務分掌の定員見直しの実施 連絡事項等の情報共有サービス等の電子掲示板利用回数を増やす。	(1) ア・イ 職員の月平均時間外勤務時間数32h26m(◎)※R7.2月末現在 ウ 職員数及び勤務実態等を考慮して校務分掌の定数を決定する。(○) R6年度も、情報共有サービスを使い、連絡事項や長期休業中の動静表等に活用しており、事務室との連絡連携に役立っている。(○)